

「河合文化教育研究所」の設立と、記念シンポジウム  
「青年の現在〈パリー名古屋〉」の開催について

河合文化教育研究所  
代表 河合 斌 人

このたび各界の有識者の賛同を得て「河合文化教育研究所」設立の運びとなりました。この研究所は、これまで河合塾が行ってきた各種の文化イベントを見直し、新たに参画していただいた塾外の方々のご意見、企画を取り入れ、全国で幅広い文化教育活動を展開する推進母体とするものです。

同研究所設立を記念して、25日午後 1時から 5時まで名古屋市中区丸ノ内 3の愛知県産業貿易館国際会議場で、フランスと日本の著名学者による国際シンポジウム「青年の現在〈パリー名古屋〉」を開催します。

私どもの意図をお汲みとりの上、貴紙・電波を通じて広くご紹介いただければ幸いです。

すでにお送りいたしました設立趣旨などと重複いたしますが、取りまとめたものと理事に就任が決定している方々のリストを添えて概要をご案内させていただきます。

☆「河合文化教育研究所」

〈設立趣旨〉

河合塾は昨年、創立50周年を迎え、これを記念して各種のイベントを開催してまいりました。それまでも数多くのイベントを開催いたしました。いずれも主として塾生や教職員を対象とし、教育活動の一環として、自然発生的に行われてきたものです。

しかしながら、現在の「青年」たちを取りまく環境およびその変化の激しさは河合塾単独で理解し、適切な企画を立てるには、あまりにも複雑、多岐にわたるといわざるを得ません。

このため塾外の有識の方々のご意見を聞き、ご協力を得て、「青年」をめぐる諸問題にメスを入れて行くこととなり、新しい機関を設立したものです。

〈組織〉

[理事] 私どもの趣旨にご賛同いただいた方々の中から、次の諸氏が理事に就任  
くださいました。(50音順)

浅井 呷 一 氏	名古屋市立博物館長
岡谷 康 治 氏	岡谷鋼機社長
海部 俊 樹 氏	衆議院議員
加藤 巳 一 郎 氏	中日新聞社社長
上坂 冬 子 氏	作家
亀井 辰 朗 氏	三省堂社長
高橋 一 夫 氏	河合塾理事
竹田 弘 太 郎 氏	名古屋鉄道会長
田中 精 一 氏	中部電力社長
長谷川 栄 一 氏	御園座会長
早川 康 弑 氏	東京工業大学名誉教授
森田 康 氏	日本経済新聞社社長
湯浅 泰 雄 氏	筑波大学哲学思想学系教授

[顧問] 文化、教育、科学など各分野の専門家を委嘱。事業の企画、実施の他、研究活動なども主導していただきます。部門別に若干名ずつ理事会が推薦いたします。

[会員] 文化教育に関心があって、研究所の活動に賛同くださる方。資格は問いません。会費として 1,000円を納付していただきますが、これは向こう 5年間の機関紙など刊行物の郵送料にあてます。

〈事業活動〉

[これまでの文化イベント] ( 河合塾・懇談会主催 )

- 83/10                NASAの宇宙飛行士、J.R.ルースマ博士を招き、全国四都市で講演会など。
- 83/11 ~ 84/3        宗教絵画とロックの生演奏を組み合わせた「電気紙芝居」と中沢新一氏らの講演会。( 全国 )
- 84/8                フランスの精神分析医と日本の著名学者を招き、国際シンポジウム「日本の心・フランスの心」を開催。( 東京 )

[当面の事業計画]

- ◇11月19日-23日    京大の国際シンポジウムの後援。( 京都 )
- ◇11月25日            国際シンポジウム「青年の現在〈パリー名古屋〉」の主催。  
( 名古屋 )

概要は次のとおりです。

☆京都・国際シンポジウム「ディドロ、および18世紀のヨーロッパと日本」

- 日 時     11月19日 (月) ~ 23日 (金)
- 場 所     京大会館 ( 京都市左京区吉田河原町 )
- 講 師     ジャック・プルースト教授 ( 仏モンペリエ第 3大学 )  
            中川久定教授 ( 京大文学部 )

ほか

京大主催、フランス外務省と河合文化教育研究所後援。

フランス18世紀の百科全書派の思想家ディドロ没後 200年を記念して開かれる。日仏のディドロ研究者と日本の18世紀思想研究者などの講演。ほか演劇、展示会など。

☆名古屋・国際シンポジウム「青年の現在〈パリー名古屋〉」

日 時 11月25日（日）

内 容 ◇特別講演 会 場 河合塾・千種校  
時 間 午前10時－11時30分

「ディドロの今日性」

講 師 中川久定 京大教授

ジャック・プルースト 仏モンペリエ第3大学教授

◇シンポジウム 会 場 県産貿館 国際会議場

時 間 午後1時－5時

PART I 「青年の過去・現在」

PART II 「青年の自己形成」

いずれも基調報告とディスカッション

河合文化教育研究所主催、フランス大使館後援。

京都シンポジウムの著名学者を名古屋に招き、現代の青年をめぐる諸問題について講演、討議してもらいます。18世紀フランスにおける青年像と教育の実態を解明するほか、1960年代後半のパリ5月革命に端を発した世界的規模の学生運動に始まる今日的な青年問題が主要テーマとなります。フランス知識人との対話を通じて、現代の「青年」の諸相が浮き彫りにされるはずです。

ディドロ Denis Diderot (1713 - 1784)

フランスの哲学者、文学者。18世紀ヨーロッパの最もすぐれた独創的な思想家の一人で、啓蒙時代の最大の遺産ともいえるべき「百科全書」の主任監修者である。

「百科全書」の編集と主要部分(哲学と技術)のほとんどを独力で書いた。興隆しつつあったブルジョアジーの代弁者として、中世的偏見の打破、宗教・教会および専制政治への批判で貫ぬいた。

国と教会の強い弾圧(発禁・投獄)にもめげず、1746年～76年までの30年間にわたって全28巻(図版11巻)と補遺5巻を刊行した。

哲学書にとどまらず文学者としても高名である。さらに進歩的思想運動を育成し組織化した偉大な啓蒙学者として著名である。

百科全書派 Encyclopedistes (アンシクロペディスト)

ディドロのもとに集った啓蒙思想家の集団 184人。革命より、むしろ改革をめざす学者と技術者たちが自らの意志で集団を結成し、創作を初めて成し遂げた。

近代的な知識と思考方法によって人々を啓蒙し、権威に対する批判的な姿勢を貫きとおした。第1巻が刊行された1751年の協力者の年齢が判っている。それによると70歳代4人、60歳代5人、50歳代7人、40歳代22人、30歳代28人、20歳代27人、10歳代14人、10歳以下3人となっている。高齢者は初期に、若年者は後期及び補巻に参加したもので、中心となったのは20歳代から40歳代だった。

また僧侶・貴族の特権身分が49人、ブルジョア102人、職人14人。職業別に見ても官吏26人、アカデミー会員24人、医者23人、大学教授17人、職人14人、文士13人、軍人、僧侶がそれぞれ8人、技師5人、工場主4人、弁護士3人となっている。

幅広い階層、職業人から成っているのが特色である。

ディドロ及び百科全書派の人々の活動、思想は1789年のフランス革命への思想的武器の提供と思想的地ならしをした点で重要な意味をもつ。